

第5学年 社会科学学習指導案

日時 令和元年10月4日(金) 公開授業 I
児童 2組(男20名 女13名 計33名)
指導者 福井 正人

- 1 単元名 「工業生産を支える人々」
「世界とつながる日本の工業」(小学社会5上 P132～141)

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、学習指導要領の内容(3)「我が国の工業生産について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民生活を支える重要な役割を果たしていることを考えるようにする。」ことに関わる単元である。この場合「次のこと」とは、(ウ)「工業生産に従事している人々の工夫や努力、工業生産を支える貿易や運輸などの働き」である。

本単元は、三つの小単元から構成されている。本小単元は、その中の第2小単元にあたる。第1小単元では、自動車生産について学習し、工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をしていることを学んできている。本小単元では、外国との関わりに着目して、貿易や海外生産の様子を捉え、それらの役割を考え、表現することを通して、貿易や運輸は、原材料の確保や製品の販売などにおいて、工業生産を支える重要な役割を果たしていることを理解することをねらいとしている。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、社会科の学習に意欲的に取り組んでいる。5月に実施した社会科アンケートでは、社会科の学習が好きであると答えた児童の割合が88%であった。これまでの学習を通して、疑問や予想を出し合って問題意識をもったり、自分で必要な資料を読み取って、工夫してノートにまとめたることができるようになってきている。しかし、話し合いにより社会的事象の意味について深める場面では、発言が単発的になりがちで、多様な意見を出し合って考えを広めたり、学級全体で社会的な事象の意味についての捉え方をまとめたりに至っていない。

前小単元では、自動車の製造の工程や工場相互の協力関係に着目しながら調べ、工業生産に関わる人々の工夫や苦勞について捉える学習を行ってきた。また、その過程において、その働きについて話し合い、深める学習も行ってきた。その際に、「考えを広げる話し合い」、「考えをまとめる話し合い」という2つの目的の話し合いの型を提示し、単位時間の中での話し合いがどんな目的をもった話し合いなのかを明確にして話し合う経験をしてきている。

そこで、本小単元では、前小単元での話し合いの経験を生かしながら、目的を意識した話し合いを繰り返すことにより、話し合いを通して社会的な事象の意味について意見を出し合い、考えを深められるように指導していきたい。

(3) 指導にあたって

第1次は、自動車の輸出の事例を扱う。第1小単元で学習してきた自動車についての輸出を扱うことで、工業生産を通じた外国とのつながりに目を向けさせ、追究への意欲をもてるようにさせたい。

第2次は、貿易や海外生産のはたらきと、それを通じた世界各国との結びつきについて学習していく。貿易や海外生産を取り巻く状況は、刻々と変化しており複雑である。5年生の児童がその役割について考えたり理解したりすることができるようにするには、観点を絞って問題を焦点化していく必

要がある。そこで、「どこでどれだけ」、「この30年間でどのように」というように、社会的な見方を意識した発問をすることで、児童がその関わりや変化を考えられるようにしたい。また、かつては、原油や鉄鉱石などの原料を大量に輸入し、それらを加工した工業製品を輸出する、いわゆる「加工貿易」が主流であったが、近年は、外国で加工された部品や完成品が日本へ輸入されるケースも増え、単純に「日本の貿易＝加工貿易」とはいえない状況になっている。そこで、約30年前と現在の輸出入を比較しながら調べる活動に取り組みさせることで、時間の経過とともに変化してきている貿易の特色にも気付けるようにしたい。

第3次は、貿易や海外生産について学んだことを白地図に「流れ図」として整理する。地図に表現することで、貿易や運輸の役割を可視化し、今後の持続可能性を高めていくには、バランスの良い貿易や海外生産の維持が欠かせないことに気付かせたい。

3 単元の指導計画

(1) 目標

工業生産を支える貿易や海外生産のはたらきと、それを通じた世界各国との結びつきについて調べ、その特色や課題を捉えることから、今後の貿易・海外生産の進め方について、考えをもつことができる。

(2) 評価規準

社会的な事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的な事象についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 貿易や運輸、海外生産のはたらきが工業生産に果たす役割を進んで考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 工業生産を通じた世界各国との結びつきについて、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 工業生産と貿易や運輸、海外生産のはたらきを関連付けて、それが工業生産に果たす役割を考え文章にまとめたり、資料をもとに説明したりして表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 貿易や運輸、海外生産のはたらきについて、グラフや地図などの資料から、必要な情報を集め、読み取っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 貿易や運輸、海外生産のはたらきが工業生産に果たす役割について理解している。

(3) 知識の構造図



(4) 単元の指導計画 (第2小単元 全5時間)

指導過程	時	ねらい	○主な学習活動 【見方・考え方】	評価規準 (方法)	
第1次	1 自動車は世界へ	日本の自動車の輸出の様子を調べ、工業生産における世界各国との結びつきについて関心をもち、学習問題を立てることができる。	○白地図に、自動車の主な輸出先をまとめ、疑問に思ったことを話し合う。 【視点1 位置や空間的な広がり～自動車の輸出先】 日本の自動車は、どこへどれだけ輸出されているのだろう。 ○出し合った疑問をまとめ単元の学習問題をつくる。	【思】工業生産を通じた世界各国とのつながりについて、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 (発言・ノート)	
		日本は、工業生産を通して、世界の国々とどのようにつながっているのだろう。			
第2次	2 世界に広がる、日本の自動車工場 (本時)	自動車の海外生産の広がりについて調べ、そのような広がりとなった理由について話し合うことを通して、海外生産の役割を理解することができる。	○自動車の海外生産がどこで、どれぐらい行われているのか調べ、そのように広がっている理由について考える。 【視点1 位置や空間的な広がり～自動車の海外生産の広がり】 日本車の海外生産は、どこでさかんに行っているのだろう。	【知】自動車の海外生産の役割を、「相手の国も豊かにするはたらき」と関連付けて理解している。(ノート)	
		3 輸入と輸出を比べてみると…	30年前と現在の輸出入のグラフを比較して、日本の貿易の特色を調べることができる。 ○約30年前と現在の輸出入の様子を比較しながら、貿易の特色について調べる。 【視点2 時間の経過～30年間での主な輸出入品目の変化】 日本の貿易は、30年前と今とは、どのようなちがいがあがあるのだろう。		【技】貿易を通じた外国との関わりについて、グラフを用いて特色を読み取ることができる。(ノート)
		4 工業生産を支える貿易	原材料の輸入や工業製品の輸出について調べ、日本の工業生産と貿易との関わりについて考えることができる。 ○日本の貿易の特色について調べ、日本の工業生産と貿易の関わりについて考える。 日本の貿易には、どのような特色があるのだろう。		【関】貿易や運輸のはたらきが工業生産に果たす役割を、進んで考えようとしている。(ノート)
第3次	5 これからの貿易と海外生産	世界の貿易や日本の海外生産を取り巻く状況について知り、これからの貿易と海外生産のあり方について考えることができる。 ○貿易の動向や、現在の貿易が抱える課題について調べ、これからの貿易と海外生産のあり方について話し合う。 【視点3 人々の相互関係～貿易や海外生産を通じた日本と外国との関係】 これからの貿易や海外生産は、どのように進めていけばよいのだろう。	【思】工業生産と貿易や運輸、海外生産のはたらきを関連付けて、それが工業生産に果たす役割を考え文章にまとめたり、資料をもとに説明したりして表現している。(ノート)		

4 本時の指導 (2 / 5)

(1) ねらい

日本車の海外生産の広がりについて調べたり、そのような広がりとなった理由について話し合ったりすることを通して、海外生産には「相手の国も豊かにするはたらき」があることを理解することができる。

(2) 研究内容に関わって

【内容②】 指導方法の工夫

- ・ 問題の把握の場面で、本時に追究する内容を「どこで」という位置や空間的な広がりによって焦点化した発問をすることにより、「日本の自動車がたくさん売れる中国やアメリカに、だんだんと生産拠点を移してきた。」という事実を確かめ、「なぜ、そのように変わってきたのか。」という後半の問いをもてるようにする。
- ・ 話し合いの場面では、「考えを広げる話し合い」であることを確認し、友達と話し合うことによって考えが広がったことを表現することを意識付けることにより自覚化させる。

【内容③】 資料活用の工夫

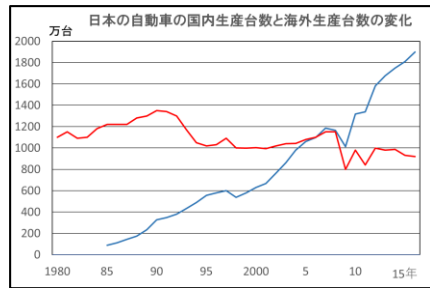
- ・ 導入で、「日本の自動車の国内生産台数の変化」と「日本車の世界生産台数が過去最高」という新聞記事を同時に提示することで、「どうして国内生産は減少しているのに、世界生産台数は過去最高なのか。」という問いをもたせる。そこに、「自動車の海外生産台数の変化」を提示することで「日本の自動車メーカーは外国に生産拠点を移している」という事実をつかませ、課題意識につなげていく。

(3) 展開

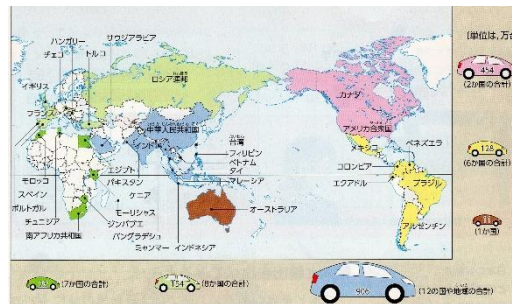
段階	学習活動 【見方・考え方】	指導上の留意点	資料等 ◇評価
問題の把握 7分	<p>1 「日本の自動車の国内生産台数と海外生産台数の変化」の資料を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海外生産が増えていそう。 ・ 輸出台数の多い国と関わりがあるのかな。 <p>【視点1 位置や空間的な広がり～自動車の海外生産の広がり】</p> <p>2 学習問題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 日本車の海外生産は、どこでさかんに行っているのだろう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国内生産が減少している事実を読み取らせた後に、世界生産台数が同時期に世界最高を記録している新聞記事を提示することにより矛盾を生み出し海外生産に着目させ、課題意識につなげる。【内容③】 ・ 出された疑問の中から、「どこで」という視点に焦点化することで、本時の学習問題につなげる。【内容②】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の自動車の国内生産台数と海外生産台数の変化 (グラフ) ・ 2014年1月30日付、読売新聞12面 (新聞)
問題の追究 30分	<p>3 学習問題に対する予想をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アメリカ…輸出台数が多いから。 ・ 中国…たくさん売れていそう。 ・ アジア…日本から近いから。 ・ たくさん売れる国。 ・ 国土の広い国。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「どこで」に絞って予想を記述させる。その際、理由も記述するよう指示する。 ・ 検証するために必要な資料について話し合い、調べ方の見通しをもたせる。 	

<p>問題の追究</p> <p>30分</p>	<p>4 「世界に広がる日本の自動車工場と、現地での生産台数」の地図をもとに、海外生産の様子を調べ、分かったことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アジア地域で一番盛んである。 ・北米の生産も多い。 ・世界中で生産が行われている。 <p>5 自動車の生産を国内から海外に移してきた理由を話し合う。</p> <p>(1) 海外生産のよさについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸送に時間や費用がかからない。 ・つり合いのとれた貿易。 ・現地のニーズに合わせた生産ができる。 <p>(2) 海外生産のみに頼る危険性について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「自動車の地域別販売台数」の資料を提示し、販売台数の多い地域で、海外生産が増えていることを確かめる。 ・自動車の生産台数を示す自動車の図をマグネットで動かすことで、「国内で生産し、輸出すること」と、「海外で生産し販売すること」の違いを理解できるようにする。 ・「考えを広げる話し合い」であることを確認し、友達の意見を聞いて考えを広げることを意識付ける。話し合いの中でも、考えの広がり価値付けて、表現するよう促す。 <p>【内容②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「もし、輸出を無くして、全てを海外生産に切り替えたら？」と発問することにより、国内の生産が雇用を支えている一面があることにも気付くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界に広がる日本の自動車工場と、現地での生産台数（地図） ・自動車の地域別販売台数（グラフ） ・インドで生産された自動車（写真） ・インド工場で働いていた青山さんの話（文章）
<p>まとめ</p> <p>8分</p>	<p>6 本時の学習を振り返り、まとめる。</p> <p>(1) 学習問題に対するまとめと、単元の学習問題に対する振り返りを書く。</p> <div data-bbox="252 1534 1145 1809" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>例) 日本車の海外生産は、たくさん自動車が売れているアジアやアメリカ等の地域を中心に行われている。それは、<u>相手の国も豊かにするはたらき</u>がある。</p> <p>外国とのつながりは、貿易だけかなと思っていたけれど、相手の国のことも考えて海外生産を増やしていることが分かり、単純にはいけないと思った。</p> </div> <p>(2) 書いたまとめを発表し合い、学習を振り返る。</p> <p>7 次時の内容について確認をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめを書く前に、学習問題について全員で振り返り、キーワードとなる言葉を確認する。 ・1段落目に学習問題に対するまとめ、2段落目に単元の学習問題について本時の学習をもとに考えたことを書くようにする。 	<p>◇自動車の海外生産の役割を、「相手の国も豊かにするはたらき」と関連付けて理解している。</p> <p>【知】(ノート)</p> <div data-bbox="1177 1496 1407 1809" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>〈支援〉 少し時間をおいて、書き出しや、文末を黒板に示し、まとめる際の手掛かりとさせる。</p> </div>

(4) 板書計画



日本車の海外生産は、どこでさかんに行っているのだろう。



話し合う

〈なぜ?〉

- ・時間 - 低コスト
- ・お金
- ・つりあいのとれた貿易
- ・ニーズに合わせた車

相手の国も豊かに

青山さんの話

つかむ

国内生産—減少 } 海外に生産を
海外生産—増加 } 移した

どこへ?

なぜ?

予想する

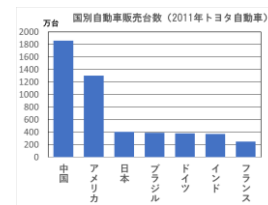
- ・アメリカ—輸出⑧
- ・中国 —人口⑧ 急成長
- ・世界中で生産
- ・アジアの国

たくさん売れる国

国土が広い国

調べる 自動車が多く売れる国

- 予想通り
 - ・アメリカ多い
 - ・世界中に広がる
 - ・輸出している国 とほぼ重なる
- △予想外
 - ・中国・アジアが一番
 - ↓
 - ・国内生産より多い



日本車の海外生産は、たくさん自動車が売れているアジアやアメリカ等の地域を中心に行われている。それは、相手の国も豊かにするはたらきがある。
(考えたこと)